

福井県衛生環境研究センター活動報告 概要

| | |
|-------|--|
| 発表演題名 | 三方湖のアオコ発生とカビ臭物質の分析について |
| 発表学会名 | 第34回全国環境研協議会東海・近畿・北陸支部研究会 |
| 発表者名 | 三田村 啓太（環境部） |
| 開催場所 | 大阪産業創造館（大阪府大阪市） |
| 発表日時 | 令和2年1月23日（木）～24日（金） |
| 発表内容 | <p>平成30年8月、三方湖で小規模ではあるがアオコの発生がみられた。アオコ発生による影響の1つに悪臭が挙げられ、アオコを形成する植物プランクトンの中には、ジェオスミンや2-メチルイソボルネオールなどのカビ臭物質を産生するものが存在することが知られている。そこで、三方湖西部および東部のカビ臭物質について、ページ・トラップ・ガスクロマトグラフ・質量分析法および固相抽出・ガスクロマトグラフ・質量分析法の2つの方法で分析を行った。</p> <p>その結果、三方湖西部では、臭気の閾値（10 ng/L）の300倍以上のジェオスミンが検出された。実際に悪臭の原因となるのは、藻体内に含まれるジェオスミンではなく、水中に溶存しているジェオスミン（溶存態ジェオスミン）であるとされている。しかし、今回の三方湖水の分析では、試料を冷凍保存したことにより、藻体が破壊され、藻体内のジェオスミンが水中に放出されていた可能性がある。そのため、実際の溶存態ジェオスミンよりも高い数値で検出されていた可能性がある。</p> <p>今後、継続してアオコが発生し、悪臭等の問題が顕在化した場合には、カビ臭物質を監視することも考慮する必要があるが、そのためには、より適切に分析できる方法を検討する必要がある。</p> |